

みんなの民放史

題字 中川 順

民放・NHK共同建設 名古屋テレビ塔物語

井澤 慶一 (CBC)

名古屋テレビ塔は、昭和二十九年(一九五四年)六月十九日に完成、翌二十日に開業した。とりあえず地上八十五米の展望台に客を容れて、放送の方は二カ月後の八月二十二日NHK名古屋総合テレビ(3ch)が出力10kwの電波を発射した。高さ百八十米、テレビ電波発射の塔と観光塔を兼ねたこの塔は全国初のものであり、当時東洋一と騒がれた。

昨年(平成十二年)十二月に出された『中部日本放送 50年の歩み』の中に「名古屋テレビ塔建設」(昭和二十八年)として短い記述が掲載されている。

へテレビ放送を実施するためCB CはNHK、愛知県、名古屋市、財界と共に名古屋市中区神楽町に

テレビ塔を建設することになり六月十五日テレビ塔株式会社を設立、九月二十九日起工式を行った。総工費二億四千万円、翌年六月に完成した。)

当時NHKと民放の共同建設、と聞いて驚く人が多かった。昭和二十六年民放ラジオが放送を開始、折からの特需景気の後押しもあっていきなり黒字という驚異の発展を見せ、NHKサイドでは民放を商業放送とアナウンスしその対抗策に神経を使っていた時期であった。

そんな時に名古屋に於いてテレビ塔を共同建設する、株式会社へ資本、役員を入れるというのはどういうことなのかマスコミの話題となったものである。

そこでこのテレビ塔の開業に当っ

て民間、NHK両方の代表格といえるお二方の開業メッセージをパンフレットから拾ってみる。

まずテレビ塔株式会社初代社長の神野金之助さん。

へこの地方に二つのテレビ放送の許可が出たことを喜ぶものである。テレビの電波の性格から考えますと一ヶ所から放送される方が受信者にとってよりきれいなテレビジョンが見られますし経費の点から

もはるかに節約され：(中略)：一方アンテナを支える鉄塔を利用して色々な科学的施設を加えればお城を戦災で失った名古屋市民にとって新しい名所となるとという一石二鳥の狙いで県・市の協力により名古屋市の中心部の緑地帯に：(後略)～



神野金之助氏

これに続いてNHK会長古垣鉄郎さんはつぎのような祝辞を寄せている。

へ中京の空を摩するテレビ大鉄塔が着工以来九ヶ月を経て完成したことは誠に慶賀に堪えません：

(中略…) NHKといたしまして
も建設の当初から技術陣をあけて
ご協力申し上げて参りました(後
略)



NHK会長(当時)
古垣鉄郎氏

これらお二人の祝辞を見る限りで
はNHKと民間の共同建設に關して
はサラリと書かれているだけである。
だがその内実については時代という
加護はあったにせよ、中京財界の合
理主義、儉約精神が大きく作用して
いることがみてとれるのである。

誰が首に鈴をつけたか

NHKは昭和二十五年、放送法に
より社団法人日本放送協会を解散、
特殊法人日本放送協会として新たに
発足したが、その定款では民間企業
への出資は禁じられていた。しかし
名古屋テレビ塔に関してはその禁が
破られた。

そこで果してNHKの首に誰が鈴
をつけたのかという疑問がある。

この問題をみる場合に忘れられな
い一人の人物がいる。その人こそN
HKの首に鈴をつけた人であろうと

推定され、今やそれが定説となつて
いる。

その人は前記した神野金之助氏で、
彼は、大正十四年に東京、大阪、名
古屋三大都市に私企業としてのラジ
オ放送局が出来た時の名古屋放送局
理事長であった。翌年それらが合併
して社団法人日本放送協会と衣替え
した時には理事・東海支部理事長と
なる。

以後、戦前戦後を通じ理事職にあ
り、テレビ塔創建時はNHK経営委
員(委員長事務代行)の要職にあり、
片や名古屋財界の重鎮として、名鉄
電車社長、商工会議所会頭であった。
名古屋にテレビ塔建設の声があが
った時、商工会議所を中心とする名
古屋財界の意向は、その合理的精神
から、NHKと共同建設すべきであ
り名古屋城と並ぶ観光塔であるべし
というものであった。

更に名古屋の戦災復興計画の推進
者である田淵寿郎名古屋市助役らは、
そのためには市の中心部の緑地帯を
提供してもよいと考えていた。この
動きを察知賛同した神野氏は、自己
の職務を通してNHKの古垣会長ら
最高首脳部を説得し法のウラをかく
方法まで考え出した。その方法とは
現金による出資を回避して現物出資
という形式であったのである。

昭和二十八年発足の名古屋テレビ
塔株式会社の役員名簿によると役員
構成は次のようになっていた。

代表取締役社長神野金之助、常務
毛利崇広(NHK浜松放送局)、取
締役佐々部晩穂(CBC社長・松坂
屋副社長)、以下村岡嘉六(大隈鉄
工所会長)、佐伯卯四郎(日本陶器
社長)、井上五郎(中部電力社長)、
磯部謙一名古屋商工会議所専務理
事、近藤重幸NHK名古屋放送局長、
佐藤義夫CBC副社長ら、監査役に
は三輪常次郎(興和化学社長)、伊
藤次郎左衛門(松坂屋社長)、鈴木
亨一(東海銀行頭取)、顧問に桑原
幹根愛知県知事、小林橘川名古屋市
長。

名古屋の財界・官界を網羅した豪
華な顔ぶれでありNHKとの完全融
合版ともなっている。テレビ塔株式
会社としては開業以来社長をCBC
とNHK出身者が交替でつとめ現在
はCBC出身の平山又(オサム)氏
が八代目社長をつとめている。

資本構成はNHKは自社のアンテ
ナ部分(四千万円)を現物出資の形
をとり、CBCも、開業当初と異な
る現在ではNHK同様四千万円の現
物出資としている。これに県、市が
各二千万円、一般(財界)四千万円
の計一億六千万円となっている。

観光塔としてのテレビ塔

テレビ草創期には東京に三本のテレビ塔が林立していた。最初NHK、ついでNTV、TBSがそれぞれ近くの丘陵地にベンシル型の塔を建て

テレビ専用波を発射していた。大阪地区は生駒山という最適地があり各社それぞれがテレビ塔を建設していた。名古屋では初のテレビ観光併用塔となったわけである。建築設計は当時最高の権威であった早大の内藤多仲教授を中心に、建築には竹中工務店他が当り九ヶ月の

短時に仕上げた。全体の構想としてパリのエッフェル塔をイメージし下部は四角構桁角立型になっている。後にその地下を名古屋地下鉄及び名鉄瀬戸線が走ることが予定されていたので特別の配慮がなされている。

地上百八十米、鉄塔部分百三十五米、アンテナ部分四十四米、脚間三十五米、展望台は地上八十五米(七十坪)、二百人が収容できる。

なお放送という特殊目的から耐震、耐風には特に留意され、震度7、風速60米に堪える設計で、昭和三十四年に東海地方を襲った伊勢湾台風の秒速50米の強風にビクともしなかった。

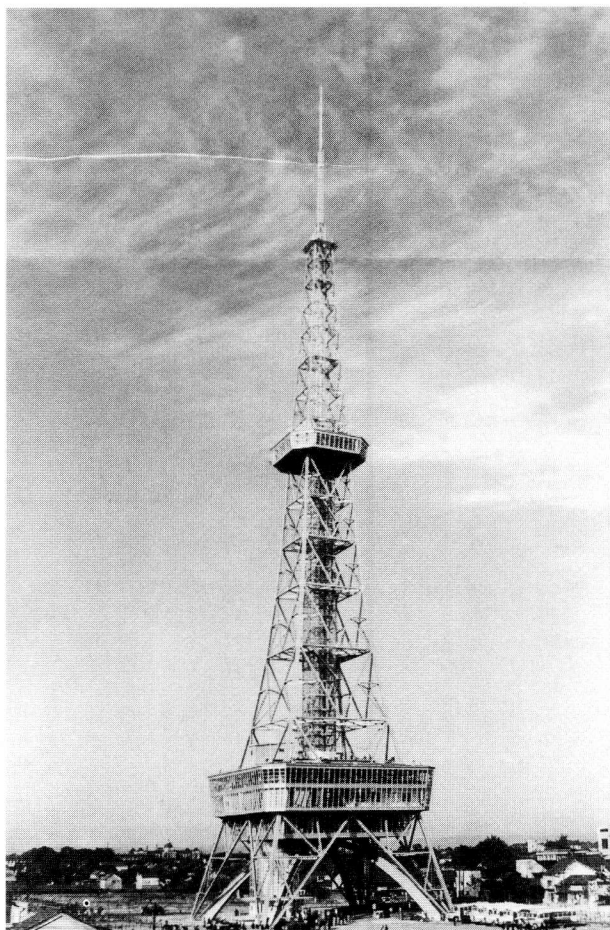
戦災復興担当の市の田淵助役は、市の中心部の緑地帯を提供できたという満足感から、建設途中の段階でも工事用エレベーターに乗り、満足そうな顔をされていたという。

ところがこの塔は法律上何なのかという問題が出てきた。通常の建造

物であれば緑地帯の条令に反し不法建築となる。そこで色々考えられた末これは工作物つまり電柱と同じものとして許可することとなった。

現在この塔からのテレビ電波の放射状況は次の通りである。

- ① NHK総合 3 ch (昭29・8・22)
 - ② CBCテレビ 5 ch (昭31・12・1)
 - ③ 東海テレビ 1 ch (昭33・12・24)
 - ④ NHK教育 9 ch (昭36・9・4)
 - ⑤ 名古屋テレビ 11 ch (昭37・4・1)
- なおこれ以後誕生した中京テレビ(35ch)とテレビ愛知(25ch)は収



開業当時(昭和29年)の名古屋テレビ塔

容の余地もなく、かつUHFであるために東山に新テレビ専用塔を建設した。

全国のトップを切って名古屋テレビ塔は観光塔ともなったが、八十五米の展望台に上ろうとする観光客は全国から大ぜいかけつめた。

その頃からテレビ塔に勤務している酒井正司さんによれば、一時間待ちの切符売場、ようやく三階までたどりついたら今度は展望台行に乗り換えなければならず、警備やら誘導する度にお客さんに叱られ通したという。

私もこれに似た経験をバリのエッフェル塔で経験した。切符を買うのにやはり一時間、三階まで上ってさらに上に行くエレベーターを待つのにそれ以上かかると聞いて私は断念したことがある。その時私の周囲からはフランス語は聞こえてこず、聞くのはドイツ語、英語、スペイン語、それに私には見当も付かない外国語ばかり、全世界からお客が集ってくるのだという感想を持った。

記録によると、開業十カ月目に百万人突破、十年後の昭和三十九年には一千万人、昭和五十三年に二千万人、平成十年七月十八日にはついに三千万人を突破した。

だが最近になって市内にこれを上

回る高層展望台ができたため漸次入場者は減少する傾向をみせている。テレビ塔側としては、初日の出などイベント及び土産物店の充実、食堂の団体客受入れサービスの強化など各種対策を練っているのが現状である。

さて今後の展望は？

昨年12月から始まったテレビのデジタル革命は今後ますますその範囲を広めてゆく。デジタル化によってチャンネルがふえ、高画質、高音質、さらにインタラクティブ、つまり、一方通行の従来の放送形態は双方向のものに切り替わってゆく。データ通信はじめ各種のサービスも加わり、一方、受像機の大形化、液晶やプラズマ方式による画面の平面化、あるいは双方向化によるクイズやテレビショッピング、又データ放送の充実等々で発信側も受信側も大革新の時代となる。

東京、大阪、名古屋地区で

は二〇〇三年に地上波がデジタル化され(当面、放送はアナログ波と並行)、ついで二〇〇六年には全国がデジタル化される。永年親しまれてきたアナログ放送は二〇一一年に打ち切りとなる予定だが、事態はまだ流動的である。

デジタル化に伴い当然今とは違った電波塔が必要となるが名古屋の場合、名古屋テレビ塔にはこれを装置できる余地は無いので、目下NHKを含む五社が新電波塔建設に躍起となっている。五社が注目していたのは中京テレビ、テレビ愛知が現用している電波塔に近い同じ東山公園地区である。ところが環境問題がうるさく、地元住民の反対もあって各種調査を実施。この春にテレビ局が委嘱した調査グループは中間報告とし

名古屋 放送タワー建設「認めず」 事業者側に正式通知

NHK名古屋放送局と名古屋の民放5社が建設を計画している地上デジタル放送タワーについて、名古屋市は28日、放送事業者側から土地使用の要望があった東山公園地区の市有地への建設を判断して、「事実上困難を急ぐ」として、席した鈴木勝久助役は、法規制のほか約2万人の反対署名があるなど住民の理解が得られていないことを説明し、東山の自然環境への影響も総合的に判断して、「事実上困難を急ぐ」として、席した鈴木勝久助役は、国のデジタル化計画を念頭に新たな候補地探し、市への建設を含め、検討を急ぐ。



現在のテレビ塔

て、自然環境を守る会等が反対している点について、反って現在の荒地が整備されること、電磁波の悪影響も殆んど影響無しと発表した。しかし五月になって、名古屋市はテレビ局から提出されていた東山地区建設願いを拒否した。公園地内にこの種の建設は認められないとする法の問題と、近傍地区住民から提出され一

万人以上の反対署名を附した建設反対請願を採択したのがその理由である。このため新テレビ塔建設に望み

をかけていたテレビ五社は急遽次の策を講じなければならなくなった。

名古屋以外の東京地区では都内に二〜三カ所の民間による建設提案があり実現可能な線が見えてきたそうである。大阪地区に於いてはアナログテレビ開始時と同様生駒山上に新塔を建てるための問題は無いようである。

では名古屋テレビ塔は今後どうなるのか。平山社長及びテレビ塔開業以来一貫して勤務し、現在常務取締

役、〃テレビ塔の主〃といわれる中村信行さんにズバリ聞いてみた。お二方は「さあ、どうなりますか」と苦しい。当面状況待ちといったところらしい。ただ市の方としては観光塔としてもつと活用できないかと考えているようだし、地域商店会関係者も集客源の一つとして再生策を考えているようである。現用のアンテナ部分は東京タワーと同様デジタル電波塔の予備アンテナにしたかどうかという考えもあり今のところ模様眺めというのが正直なところである。流行のこたばを借りればテレビ塔老化の介護策如何といったところであろう。

井澤慶一氏略歴

中部日本新聞社、中部経済新聞社を経て、昭和26年、中部日本放送へ。制作局長、報道局長、常務取締役、CBC映画社社長などを歴任。平成元年退任。名古屋演劇ペンクラブ顧問。エッセイスト。